

## 全量1等米生産に向けて 適正な田植えと水管理で、初期生育確保！

### ここがポイント！！

- 1 田植えは極端な早植えを避け、好天日に品種に応じた栽植密度で植える
- 2 田植え後は深水管理、活着後（田植え後7～10日位）は浅水管理を徹底
- 3 除草剤は遅くならないように散布し、散布後は湛水状態を保つ

## 1 田植え作業（早植え注意！）

### （1）田植え日

- ア コシヒカリの田植えを5月10日以降にすることで、出穂期の早期化を是正し、登熟初期の過高温による品質低下を避ける。
- イ 好天日に田植えをすることで活着を促進させる。強風・低温等、悪天候時の田植えは活着の遅延及び初期生育の不良に繋がるため、避ける。

### （2）栽植密度、植え付け本数

- ア コシヒカリの栽植密度は50～60株/坪を基本とし、移植時期や土壌の肥沃度により調節する。その他品種については、茎数が過剰になりやすい場合は50株/坪とし、早生品種や茎数を確保しにくい場合は60～70株/坪とする。
- イ 植え込み本数は1株当たり3～4本とする。植え付け本数が多いと、過繁茂による倒伏で品質低下に繋がる。
- ウ 植え付け深さは2～3cmとし、初期分けつの発生を促進する。深植えは下位分けつの発生が抑制されるため、避ける。

## 2 田植え後の水管理

- （1）活着するまで（田植え後7～10日位）は水深を3～4cmのやや深水で、低温や強風による植え傷みを防止する。
- （2）活着後は2～3cmのやや浅水とし、地温の上昇を図り分けつの発生を促す。
- （3）ワキや藻・表層剥離が大量発生する前に、早めに水の入れ替えや夜間落水をする（気温が高く、雨が少ない年は特に注意）。

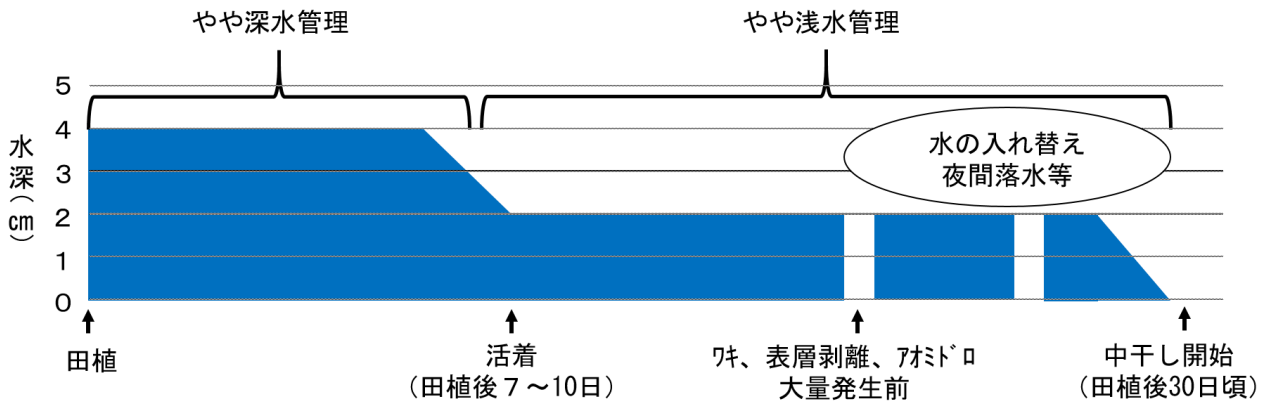


図5 田植えから分けつ初期の水管理

### 3 除草剤の効果을最大限に發揮

- (1) 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均平にしておく。
- (2) 一発処理剤の使用を基本とする。初期剤を使用する場合は、河川などへの流入を防止するため、田植え前には散布せず、田植え時または田植え後に散布する。
- (3) 処理晩限に近い散布では残草しやすいので、散布適期を逃さないように、早めの散布を心がける。
- (4) 散布時の水深は3～5 cm程度を確保し（ジャンボ剤や豆つぶ剤は5～7 cm）、処理後7日間は入水せず、4～5日間は湛水状態を保つ（落水や掛け流しは厳禁）。自然減水により早期に田面が露出する場合は、処理層を壊さないように静かに入水する。
- (5) 農薬使用は製品ラベルに記載されている使用基準や注意事項、使用方法をよく読み、内容を遵守する。

### 4 新之助栽培のポイント

田植えは5月中旬をめやすに行う。新たに作付けするほ場は、前年作の漏生籾による異品種混入防止対策として、除草剤は初期剤と一発処理剤の体系処理とする。また、葉いもち防除（箱施用または水面施用）は、必ず実施する。

メールマガジン登録募集中！

気象や生育状況に基づいた水稻栽培のポイントをお届けします。  
初心者もベテランも日々の作業のお供に、ぜひ登録を！

[ngt112130@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt112130@pref.niigata.lg.jp)

こちらからもメールできます↑

※件名に「水稻情報メルマガ登録希望」、本文に「お名前」と「住所」をご記入ください

